

記 者 会 見
3 1 . 1 . 1 0
資 料 1

秦野市長 平成31年 年頭所感 ～未来を見据えて進める本物の魅力づくり～

昨年1月に本市の市政運営を任せていただいてから、この1年間、多岐にわたる市政の課題に迅速に対応しながら、着実な市政運営に努めてまいりました。

さて、平成31年度は、「総合計画後期基本計画」が4年目を迎えます。

社会経済情勢の変化や私のマニフェストに基づく計画の見直しを行いつつ、引き続き、着実な市政運営に取り組むための予算の編成状況について、ご説明します。

まず歳出面では、子育て支援策の充実（小児医療費助成の拡充）などにより扶助費が増額となります。加えて、医療費の増加や高齢化の進行に伴い、国民健康保険事業や介護保険事業などの特別会計への繰出金が増額となる見込みで、依然として社会保障費は伸び続ける状況にあります。

一方、歳入面では、景気の回復基調が続くことから、市税全体では、増収を見込んでおり、国からの普通交付税の増額も見込まれることから、一般財源総額は30年度当初予算を上回る見込みです。

こうした状況を踏まえ、31年度では、未来の秦野へつなぐ持続可能な財政基盤の確立に向け、人口減少の抑制や地域経済の活性化に必要な投資を積極的に行うこととしており、現時点の概算ですが、一般会計は、前年度と比べ、約10億円増の総額500億円超の予算規模となる見通しです。

今回、予算編成に向け、私が市長就任時に市民の皆さまに約束した5つの誓いをより確実に進めるため、新たに組織を横断的に取り組むことによる相乗効果を目的に、予算を重点配分する「秦野みらいづくり特別枠」を設けました。

まず、「小田急線4駅周辺のにぎわい創造」に関する事業です。

秦野駅周辺では、自転車駐車場の建て替え、ペDESTリアンデッキの延伸及び下りエスカレーターの新設により秦野駅北口駅前広場の再整備が完了します。今後は、県道705号線の拡幅整備の進捗に合わせて、沿道周辺のまちづくりと商店街の再形成を推進するとともに周辺の地域資源を活用し、魅力溢れるにぎわいづくりを推進していきます。

また、鶴巻温泉駅周辺では、鶴巻温泉と大山を結ぶバス実証運行を本格運行につなげることで、源泉の更なる活用と、市、自治会、地元商店会等が一体と

なった魅力あるまちづくりを目指します。

次に「新東名・246バイパスの最大活用」に関する事業です。

新東名高速道路（仮称）秦野インターチェンジや（仮称）秦野サービスエリア周辺から表丹沢の東側にあるヤビツ峠周辺までの表丹沢一帯を対象エリアとした土地利用構想の策定に着手します。エリア内に点在する個々の観光スポットや施設の魅力を磨き上げながら関連性を持たせ、本市最大の地域資源である表丹沢の更なる魅力の向上を目指します。

また、秦野サービスエリア（仮称）に整備されるスマートインターチェンジの周辺整備について、新東名高速道路との同時供用開始に向け、アクセス道路等の整備を引き続き進めるとともに、産業振興や観光振興を図ってまいります。

この秦野みらいづくり特別枠として、約3億円程度の事業費を見込み、予算を重点的に配分する予定です。

なお、既に実施が決まった「小児医療費の助成」の推進や、「中学校完全給食」の2021年の提供開始なども確実に取り組んでまいります。

以上が現時点における新年度予算の編成状況ですが、詳細は、次回の記者会見で発表させていただきます。

ぜひ今年の秦野市の成長していく姿をおおいにご取材いただきますようお願いし、年頭所感とさせていただきます。